

大量の切手使用 アンケートに不可解な点

市川市議会の一部議員が政務活動費を使って切手を大量購入していた問題に関する本紙の取材で、この切手を使って行ったとされるアンケート調査の集計結果やアンケート用紙の回収経路などに不可解な点が見つかった。これまでに判明した疑義についてまとめた。

返信先職員の目撃証言ゼロ

政務活動費の支出伝票や本紙の取材などによると、当時の会派・新生市川に所属していた議員が平成24年10月、政務活動費12万円を80円切手1500枚を購入し、市議会に関するアンケート(アンケート①)を行ったとされている。切手は自らアンケート用紙に貼って手渡しやポストインで配布し、91.1%から回答を得たという。市議会事務局に提出

されたアンケート用紙の見本を本紙が確認したところ、返信先は市川市議会、会派名はこの議員が当時所属していた新生市川ではなく、その以前に所属していた緑風会。市民から郵送で返ってきたアンケート用紙をこの議員が手にするには、議会事務局から緑風会を経由する必要がある。しかし議会事務局には、1360通以上も返ってきたはずのアン

ケート用紙を見たと言っている職員が一人もいないことが判明。当時の緑風会の議員も、5人全員が「アンケート用紙は見ることがない」と断言している。アンケート用紙を取得した経緯についてこの議員は、この問題等に関する百条委員会の設置と外部監査の実施を理由に「回答は差し控えたい」としている。

集計結果が8問すべて一致

この議員は、当時同じ新生市川に所属していた別の議員1人と、会派・ボランティアの議員1人と3人でも、同じ内容のアンケート(アンケート②)を実施したとされている。しかし、議会事務局に提出されたアンケート①

日であるのに対し、アンケート②の開始日はそれから2カ月半後の翌25年2月15日。両アンケートをまとめて集計するのは不可能だ。アンケート①の実施者を除く2人は、アンケート②を含め平成24

25年度に市議会に関するアンケートを合わせて6回実施したとしているが、集計結果が8問中4問以上で一致したケースも2度あった。「主な意見」として紹介した市民の意見8つはアンケート①を

含め5回、アンケート実施者による総括の文章は3回が一言一句すべて同じだった。2人は、議会報告会の参加者とともにアンケート用紙に切手を貼るなどして、参加者を通じて知人に渡してもらったり、自ら手配りしたりして各回4千9千枚配ったという。回収率は6回中4回が90%以上で、最高は98%だったとしている。

印刷会社は議員が取締役

2人は、2年間で実施したアンケートで切手代256万円、印刷費87万7千円の政務活動費を使用。印刷の発注先は、2人のうち新生市川に所属していた議員が取締役を務める会社で、その弟が代表を務めている。

取材に「印刷はうちの弟がやっていると思おう」と説明。アンケート①を実施した議員は「印刷は取締役の議員に任せた。印刷費のことはよく分からない。覚えていない」と話している。

また、同市議会では緑風会所属の議員1人も、過去2年間でアンケートを3回行ったと取締役の議員は本紙の

だが、アンケート①の集計日は同年12月1

費は政務活動費として請求されていないが、

また、同市議会では

の決算期には確定申告を行っていなかった。